

～ 冬の換気対策、コツを教えます ～

<冬は「要注意」なのか! ?>

さて、未だ猛威を振るう新型コロナウイルスですが、冬に流行するインフルエンザのように、**新型コロナウイルスも寒い環境の方が流行しやすいのではないか**、と思うことはないでしょうか。

調べてみますと、一般的に呼吸器系のウイルス感染症では季節性の変動があり、冬季の**“乾燥し寒い気候”**によってウイルスの**安定性と伝播力を高める**のと同時に、**ヒトの免疫系を弱めるため、増加する傾向**にあるようです。

新型コロナウイルスと同じコロナウイルスであり、かぜの原因である**“ヒトコロナウイルス”**も、年中流行しており、特に冬に多くなるのだとか。

<効果的で、エコな換気を!>

空調機器メーカー大手のダイキン工業によると、家庭での効果的な冬場の換気は、**暖房を入れ、部屋を暖かくしてから窓を開けると効率が良い**そうです。

室内が**寒いまま換気を行うと**、室温とエアコン設定温度の差が広がり、**エアコンの負荷が増して電気代が上がる原因**になるとのこと。

先に暖房で部屋の壁や床を暖め、エアコンを運転したまま窓を開けると、室温が下がりやすく快適だとしています。

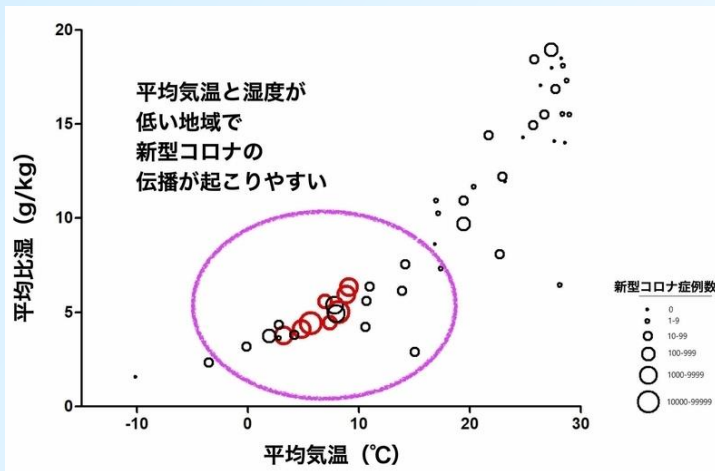
換気の時間と頻度は「**5分より短めの窓開け換気を1時間に2回**」が目安。

冬は夏よりも外気温と室温の差が大きく、**夏場より短時間で空気を入れ替わります**。

この他、① **2003年7月以降の建物なら“標準”で備えている「24時間換気システム」を正しく使う。**

② **対面する2カ所など“空気の通り道”を作るように窓を開ける。** ③ **台所の換気扇を活用する。**

などがあります。



平均気温5～11℃で湿度の低い地域だとウイルスの伝播が多く見られているという結果。

夏と冬の室内と室外の温度差

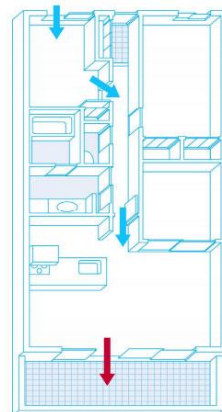
夏：外気温と設定温度の差8℃

冬：外気温と設定温度の差13℃



歌全体を換気したい時
バルコニーに接する窓と玄関側のどちらかの窓を開け、途中の扉を開けるとよいでしょう。

一般的な間取りのマンションにおける換気例



<換気に加えて、加温と加湿を！>

前述のグラフにもありましたが改めてまとめてみますと、

(温度との関係)

低温になるとウイルス自体が活性化している時間が長くなるといわれ、寒くなると家にこもって過ごす時間が多くなりがちで、自ずと「密」を作りやすい状況に。実は、私たちの行動パターンが冬にウイルスを流行させる原因の1つになります。

(湿度との関係)

新型コロナウイルスの“飛沫”は「咳や発声」により生じ、ウイルスの周辺に多少の唾液が付いている状態。マイクロ飛沫という小さな飛沫もあるそうで、いずれも空気が乾燥しているとその粒子が小さく軽量化するため、乾燥した空気中ではウイルスが飛びやすい環境を作り出しています。

例えば、室内で1.8mの間隔で向かい合って咳をした場合、湿度30%と60%で比較すると、相手に届く飛沫量が**湿度30%の状況下では60%3倍に!**

まとめていきますと、下の図がわかりやすいと思います。

補足として、

- ・ 窓を開ける場合、風が吹き込む窓と、その対角線上にある窓を開け、**空気の出口と入り口をつくる。**
- ・ 2カ所の窓が同じ面にあるなど近接していると、入ってきた空気がすぐ外に出してしまうので、「**距離が離れているほど効果的**」となる。
- ・ 部屋に窓が1カ所しかない場合、ドアや廊下などの窓も開け、空気の通り道を確保。
- ・ エアコンや換気扇、加湿器を活用して「**室温18℃以上、湿度40%以上**」を1つの目安に。

最後にもう1つ!

意外と気にしてない・・・
意外と知らない・・・

車のエアコンを使用する際は「外気導入」に!!



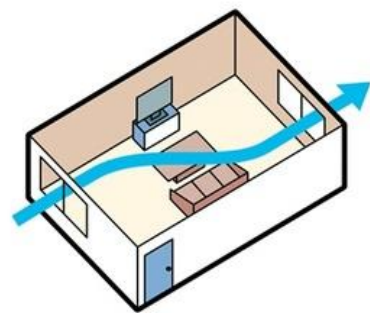
内気循環



外気導入

冬場の効果的な換気の方法

- 換気扇を回す、換気口を開けるなど機械設備を活用
- 暖房で室内を暖めた後、暖房を入れたまま窓を開ける
- 開ける窓は対角線上にある2カ所
- 寒い場合は、30分に1回3、4分程度を目安に



本年もあと少し

令和3年もよろしくお願い申し上げます!

年末年始もご相談はお気軽に!!

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、声かけ頂ければ、何でもお役に立ちます!

～土地・建物のよろず屋～



マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628



<http://maruhiro2103.co.jp>